

大谷内作 「あなたの若い日に」

- ナレーション 仏教の盛んな北陸で、小さいころから、毎日、両親と共に仏壇を拝み、お経を読んで育った大谷内君が、生まれて初めて教会に行ったのは、彼が高 1 の時、北陸にしては珍しく雪のない、穏やかな 12 月のある日でした。
- 大谷内守 おい、利香ちゃん。本当にお前の教会の… 特別伝道集会とかに行けば、ケーキとコーヒーにありつけるんだろうな？
- 渡谷利香 ええ。だってクリスマスの特伝ですもの。十分期待していいわよ。
- 伊藤 おっ、ありがてえ。おれ、今日の昼、職員室で正座させられて、なんにも食ってないんだ。おれは、やっぱりチーズケーキがええなあ。なあ、みんな！
- ナレーション こんなわけで、大谷内君が数人の友人と一緒に教会に着くと――。
- 高橋 新しい方ですね。ようこそ！
- 大谷内 こ… こんにちは。初めまして…。
- 高橋 早速ですが、まずこの紙に名前を書いてください。
- 大谷内 はい。えっと…。(名前を書く)
- ナレーション その紙が、やがて彼を神様に導く大切な役割を果たすとは、その時の彼は夢にも知りませんでした。
- 荒木牧師 …わたしたち人間は、まず自分が神のみ前においては、皆罪びとであるということを認めるべきです。
- 大谷内 (小声で)何？ 人間が皆罪びとだって？
- 伊藤 (小声で)そんなこと言ったら、みーんなブタ箱に入っているはずじゃないか。
- 荒木牧師 もし今日、自分が本当に罪びとだと気づいた人があるなら、どうかイエス様の十字架上のあがないを自分のものとして、受け入れてください。
- 伊藤 (小声で)おい、聞いたかよ。イエスは、おれたちのために十字架にかかったんだとよ。
- 大谷内 (小声で)死刑にされるようなことをして、それがおれたちのために死んだなんて、虫がよすぎんのと違うか？ 早いとこケーキ食べて出ようぜ。長居は無用だからな。
- 効果音 (コーヒーカップ、スプーンの音)
- ナレーション その後、何度か教会からの案内状が来たりしましたが、大谷内君は、ほかの友人同様、礼拝に行こうとはしませんでした。でも、なぜか特伝になると――。
- 大谷内 何？ 金、土、日が特伝？ 今度の講師は、本田弘慈。よし、おれ行くぜ！
- ナレーション …とまあ、こんな調子。そこで、当然友人が――。
- 伊藤 おい、お前、なんで特伝になると急に張り切るんだよ？
- 大谷内 ん？ 最初のうちは、講師の先生の話が文句なしに面白かったんで行ってたけど、今は違うんだ。
- 伊藤 「違う」って、何が？
- 大谷内 つまり、特伝の時、最後に祈るだろ？ 皆 頭を垂れて。その時、おれだけ目を開けてるんだ。そうすると、おれだけ何か勝ったような気がするんだ。
- 伊藤 お前も相当なワルだなあ。あんな善人たちをだまして。
- 大谷内 何言ってんだい。あいつら、自分で自分を「罪びとだ」って言ってるんだぜ。

ナレーション そうこうしているうちに、大谷内君は高 3 になり、学校側の受験対策にすっかり包み込まれた毎日が始まりました。そんなある日、やっと模擬試験が終わって――。

効果音 (試験終了のチャイム。教室のガヤ)

伊藤 おーい、大谷内。どうだった？

大谷内 何も言ってくれるな。おれもうダメ。早く帰って寝る～。

ナレーション そこへ、渡谷さんがやってきて――。

渡谷 わあい、終わった終わった終わったあ～。ねえ、これから教会へ行かない？ 今日特伝なの。

伊藤 こんな時、よくそんなこと言えるな。

大谷内 全く、あきれて物も言えないよ。

渡谷 今年最後の特伝なの。

大谷内 ほんじゃ、またありがた～い話を聞きに行くか。

ナレーション そう言いながらも、内心では(今度もおれは惑わされないぞ)と思いつつ、彼が教会へ行くと――。

効果音 (賛美)

大谷内 なんだい、あれは？ 賛美歌でも聖歌でもないようだけど。

横山 いらっしゃい。ああ、あれは“ゴスペルフォーク”って言って、今、若い人たちのグループでよく歌われているのよ。

大谷内(モノローグ)へえ、あの若さでクリスチャンなのか…。

ナレーション しばらくして、司会者の祈りで集会が始まり、賛美、あかし、メッセージがあつて、大谷内君待望の終わりの祈りになった時――。

大谷内(モノローグ)なぜだろう。今日は、講師の先生の話一つ一つが気になる。なぜだろう。何かどうしようもないくらい巨大な圧力を感じる。何かが心の中でささやくんだ、「お前も悔い改めよ」って。

ナレーション その時、さっきの女の人が彼のそばにきました。その人は教会の牧師先生でした。

横山 今日の話、どうでした？ 何か質問などありませんか？

大谷内 えっと…。教会の人たちは皆、「イエス・キリストが、なんの罪もないのに、十字架につけられた」と言ってるけど、で、でも、まだ僕には、その十字架にかかったのと、罪の関係がよく分らないんです。特に“罪”っていうものが。

横山 そうね。確かにわたしたち人間の目から見ると、それは殺人・盗み・姦淫^{かんいん}等だけど、神様は、「心の中である人を憎んだりするだけでも、それは殺人である」と言っておられるのよ。また、「情欲を抱いて相手を見るのも姦淫の罪だ」って。神様の目から見れば、わたしたちは皆罪びとなのね。もちろんわたしも。

大谷内(モノローグ)この先生は、まるで祈りながら話しているようだ。それに、この先生は本当に確信を持って話されている。僕と先生との間には、なんて大きな差があるんだろう。

横山 さあ、何か悔い改めたいことがあつたら、一緒に祈ってあげますよ。あ、その前に、お名前は何？

大谷内 はあ、僕、大谷内と言います。

横山 え、大谷内さん。あの、確か、2 年前、クリスマスの特伝に来られた？

大谷内 ええ。その…本人ですが。

横山 わたし、お顔は知りませんでした。あの時の紙を見て、ずーっとあなたが救われるように

祈ってきました。(祈る)恵み深い父なる神様、今日、こうして大谷内さんをここまで導いてきてくださり、感謝いたします。…(FO)

大谷内(モノローグ) ああ、おれは 2 年間ずっと何も知らずただ反論していたけど、こんな者のために祈ってくださっていたなんて…。でもまだおれには罪の意識がない。僕の罪、主の十字架…、分からない！

ナレーション その時です。突然彼は、長い間忘れていた幼い頃の出来事を思い出しました。その出来事は、彼の小さな胸を、罪意識でさいなみ続けていたのです。

効果音 (セミの鳴き声)

大谷内ナレーション 僕が 4 つの時、害虫駆除のための町内消毒の時、家の中を真っ白い冷たい煙で消毒する車が回ってきて――。

効果音 (車のエンジン音、遠くから次第に近く。)

大谷内(4 歳) お母ちゃん、消毒の車が来たよ。

母 あ、そうかい。じゃお前、先に勝手口から出なさい。すぐ行くから。

大谷内ナレーション その時です。まだ家の中に僕たちがいるのに、消毒の白い煙が玄関から吹き込んできたのです。

効果音 (車のエンジン、フル回転、引き戸を閉める音)

大谷内ナレーション 母もそのことに気づいたらしく、急いで戸を開けようとしたのですが、僕はただもう夢中で戸を閉め、こう叫びました。

大谷内 僕、まだ死にたくないよ～！

母 開けなさい、守！ ここを開けなさい！

大谷内ナレーション 僕はもう、「イヤだ、死にたくない」の一点張りで、窓から見える母の顔が涙と煙とで曇って見えなくなるまで、戸を押さえていました。

高橋 バカヤロー！ お前、自分の母親殺す気か！ なんてガキだ。

大谷内ナレーション そう言って僕は、2、3 人の人に押さえつけられ、気を失ってしまいました。気がつくと、見慣れた部屋に僕と母が寝かされていました。

大谷内 お母ちゃん、カンニン。死なんといて。言うことなんでも聞くから…。

母 心配要らんよ。ちょっと無理しとったから、急に疲れが出たんよ。

大谷内ナレーション しかし母は、その後しばらく寝たきりでした。“すべては僕のせいだ。僕が母ちゃんをこんな目に遭わせたんだ。”この思いが、僕の心を苦しめました。僕は何よりも、ただ絶対的な赦しゆるの実感が欲しかった。それで仏壇を拝み、神棚を拝み、赦してくれるように祈った。でもしよせん、それらはむなしい祈りでしかなかった。それで、僕自身のうちに、“イヤなことは忘れてしまおう”という気持ちが起こり、いつしかこの出来事は、僕の脳裏から忘れられていたのです。

音楽 (ブリッジ)

大谷内ナレーション でも、イエス・キリストは僕のこの行為をも赦すために、十字架にかかれたのだとしたら…？ 人には絶対知られたくない心の痛みを、主がご存じだったとしたら…？ 僕は、この苦しみを打ち明けよう。

(祈り)イエス様、あなたの十字架上の痛みは、僕の罪のためであったことを信じます。どうぞ、僕の救い主となってください。

<完>